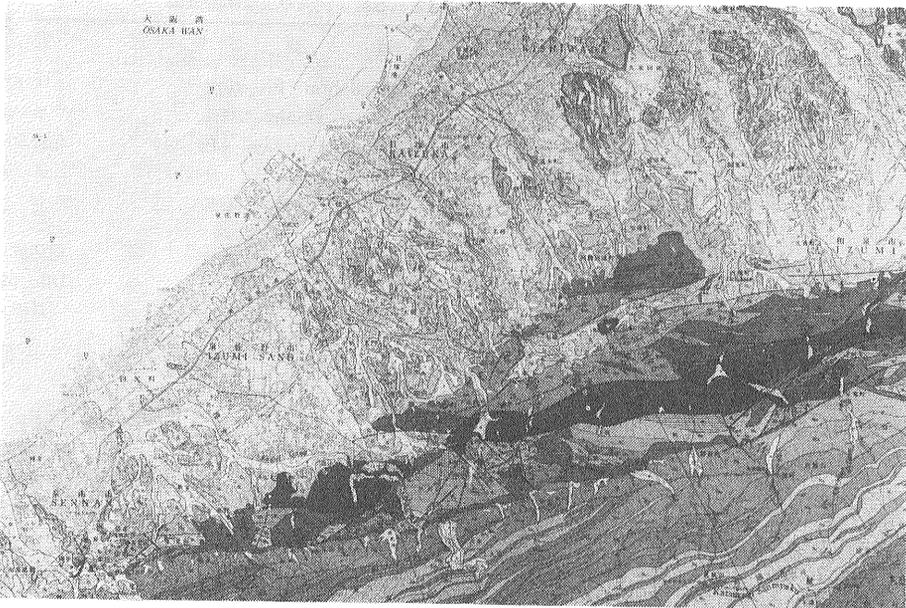


岸和田市は 大阪の中心部から車で1時間余りのところにある旧城下町で その隣りは“東洋の魔女”を生んだ「日紡貝塚」の貝塚市である。

岸和田図幅地域は、この2市を中心として大阪湾に面する和泉海岸平野 その背後の泉南・泉北の丘陵 そして和歌山県との分水嶺をなす和泉山脈とから構成されている。最近では 丘陵地域は大阪のベッドタウンとして開発が進み また泉南沖では関西新空港の建設がスタートしようとしている。

この地質図は 昭和58—59年度の地震特定地域



の図幅として取り上げられたものであるが 実際には 数十年にも及ぶ著者らとその協力者たちの研究の集大成といえよう。なかでも目を引くのは 丘陵地域に広く分布する大阪層群である。同層群は 下位から 泉南・国分・泉北の3果層に大別され さらに これらに挟有される13枚の火山灰層と11枚の海成粘土層 (Ma-1—Ma9) が詳細に図示されている。また植物化石・古地磁気層序・フィッシュントラック年代・大阪湾海底下の資料などの記述も詳しい。近年問題になっている大阪層群中の不整合(“芝の不整合”)についても それを否定する立場からの論述がある。

大阪層群の南側に 和泉山脈の前衝山地をつくって分布するのが 領家花崗岩類と 泉南 流紋岩類である。領家花崗岩類は 古期の片状岩と新期の塊状岩とに大別され 前者はさらに4岩体に分けられ それぞれの内部構造が解明された。片状構造の主因は 左ずれ剪断運動によるマイロナイト化とされている。一方 塊状花崗岩 (近木川花崗岩) は 溶結凝灰岩の厚層からなる泉南流紋岩類を貫いており それらと1つの火山一深成複合岩体を形成している。

和泉山脈に分布する和泉層群は 層相の側方変化に注目して 主部相と北縁相とに大別され 主部相はさらに下位から 信達・岩出・粉河の3果層に分けられている。そして フリッシュ互層からなる主部相の各果層については 堆積サイクルと岩相とによる二元的な表現 (たとえば 信達果層の第5サイクルの泥岩優勢互層であれば Sm<sub>5</sub>……) による図示区分が行われている。二枚貝やアンモナイトなどの化石や沸石変質についてもページがさかれている。

和泉層群とその下位の泉南流紋岩類との斜交不整合は 本地域で最も重要な構造境界であり 地学教材としても最適の題材であるといえよう。

その他のトピックスとしては 泉南流紋岩類の下位に小規模に発達する高マグネシア安山岩 中新世の甘南備 (かんなび) 果層とこれを覆う鍋山安山岩 (サヌキトイド) などが記載されている。

応用地質の項では 地下水と地盤沈下に関する最近のデータがまとめられている。

(研究報告: 本文148ページ 図84 表14 図版8)



### 5万分の1地質図幅の新刊

## 岸 和 田 KISHIWADA

### 5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著 者 市原 実・市川浩一郎・山田直利

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401

そのほか全国主要書店

販売価格 3,700円

地 質 ニ ュ ー ス	第 386 号	10 月 号
昭和61年10月1日	定 価 予 630	〒 実 費
編 集	発 行	
発 行 人	工 業 技 術 院 地 質 調 査 所	
発 行 所	林 久 雄	
	株 式 会 社 実 業 公 報 社	
	東 京 都 千 代 田 区 九 段 南 4 の 2 の 12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振 替 口 座 東 京 1-32466	
総 発 売 元	株 式 会 社 実 業 公 報 社	
	出 版 事 業 部	